

文献

アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワーク, 兵庫県こころのケアセンター訳, (2017年2月2日検索).アメリカ国立 PTSD センター「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第2版」<http://www.j-hits.org>.

Anderson G, Herr K(1999).The new paradigm wars: is there room for rigorous practitioner knowledge in schools and universities ? Educational Researcher, 28(5) 15-16.

青木由美恵(2014).看護師における対話的グループ・リフレクションの認識、関東学院看護学雑誌、1(1)、57-64.

Charles A. Rapp, Richard J. Goscha, 田中英樹(翻訳)(2014).ストレングスモデル
リカバリー志向の精神保健福祉サービス. 東京 金剛出版.

Emmerik AA, Kamphuis JH, Hulsbosch AM, et al.(2002). Single session debriefing after psychological trauma ; A meta-analysis. Lancet、 360(9335)、766-771.

Figley, C. R. (Ed.). (1995). Compassion fatigue: Coping with secondary traumatic stress and disorder in those who treat the traumatized. New York: Brunner/ Mazel
psychological stress series, No. 23.

福島県(2019年1月14日検索).平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報(1749報).http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/399341_989108_misc.pdf.

古城門靖子,赤沢雪路,曾根原純子他(2016).職場での体験を語ること・グループを通した中堅看護師の感情知性の育成-、日本精神保健看護学会誌、25(1)、19-28.

芳賀 博(2016).地域におけるアクションリサーチへの期待, 老年社会科学,38(3),357-361.

Holloway, J., Wheeler, S. (2002).野口美和子監訳(2006).ナースのための質的研究入門
第2版、医学書院.

堀公俊,加藤彰,加留部貴行(2011)チーム・ビルディング 人と人を「つなぐ」技法、日本経済新聞出版社.

岩本里織,岡本玲子,小出恵子他(2015). 東日本大震災により被災した自治体職員の被災半年後の語りに 見られた身体的精神的健康に影響する苦悩を生じた状況,日本公衆衛生看護学会誌,4(1), 21-31.

金澤克彦,大島俊子,蕪木伸一,五十嵐優(2016).「経験を語る会」を実施した効果、日本精神科看護学術集会誌、59(1)、190-191.

萱間真美,大橋明子(2015). 放射線健康不安の改善に関するプログラムの開発 福島県の市町村保健師への調査結果フィードバックに対する保健師の感想に関する調査および支援プログラムの提案 福島県における放射線健康不安の実態把握と効果的な対策手法の開発に関する研究、【環境省：放射線研究】平成26年度原子力災害影響調査等事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)研究テーマ 放射線による健康不安対策の推進に関する研究 報告書.

萱間真美(2016).リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術、医学書院.

Kisthardt, W.(1993). The impact of the strengths model of case management from the consumer perspective. In M. Harris & H. Bergman (Eds.), Case management: Theory and practice, 165-82, Washington, DC: American Psychiatric Association.

北村隆子(2012).対象者が持つ強みについての概念分析,人間看護学研究,10(1),155-159.

小林恵子(2011a).子供の虐待事例検討会の実践による保健師の意識と支援の変化-アクションリサーチを用いて-, 日本看護研究学会雑誌、34(2)、131-141.

小林恵子 三澤寿美 駒形ユキ子 他(2011b). 災害支援活動を行った看護職者のストレス反応と関連要因、日本災害看護学会誌、12(3)、47-57.

公立大学法人福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター(2019 年 1 月検索). 平成 28 年度県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」 第 32 回検討委員会資料、<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/287511.pdf>

草柳浩子(2012).子どもと大人の混合病棟で働く看護師の意識とケアの変化-アクションリサーチを通して-, 日本看護科学学会誌、32(4)、32-40.

Lambert, M (1992). Psychotherapy outcome research, In J. C. Norcross and M. R. Goldfried(Eds.), Handbook of psychotherapy integration, 94-129, New York, Basic Books.

Lewin, K(1946).末永敏郎(1971).社会的葛藤の解決-グループダイナミックス論文集、271、創元社.

前田正治編著 (2018) .福島 原発事故がもたらしたもの 被災地のメンタルヘルスに何が起きているのか,誠信書房.

Maeda,M.,Ueda,Y.,Nagai,M., et al.(2016).Diagnostic interview study of the prevalence of depression among public employees engaged in long-term relief work in Fukushima. Psychiatry and Clinical Neurosciences, 70 (9),413-420.

松井 豊(2009).惨事ストレスへのケア,おうふう.

松清由美子,上平悦子(2013).東日本大震災で支援活動を展開した看護師の心理状況とその背景、日本災害看護学会誌、15(2)、15-24.

Meyer, J. E(1996). Using qualitative methods in health-related action research, In C. Pope,& N. Mays(Eds.),Qualitative research in health care, 59-74, London, BMJ.

嶺岸秀子,遠藤恵美子(2001).看護におけるアクションリサーチ 総説、看護研究、34(6)、451-463.

文部科学省(2018).小学生のための放射線副読本～放射線について学ぼう～.

中村和彦(2008).アクションリサーチとは?、人間関係研究、7、1-25.

中信利恵子,山田覚(2009).災害看護の体験が看護者に及ぼす影響と体験の意味づけ、日本災害看護学会誌、11(2)、43-58.

尾高大輔,川名るり,山内朋子他(2011).子どもや家族の言動による傷つき体験を看護師が語ることに對するアクションリサーチ、日本小児看護学会誌、20(2)、49-56.

織田信夫著 堀毛一也編(2010).ポジティブな認知を形成するアプローチ - SFA を中心に、現代のエスプリ ポジティブ心理学の展開「強み」とは何か、それをどう伸ばせるか、199-200、ぎょうせい.

Oe,M.,Fujii,S.,Maeda,M.,et al.(2016).Three-year trend survey of psychological distress,post-traumatic stress, and problem drinking among residents in the evacuation zone after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident[The Fukushima Health Management Survey].Psychiatry Clin Neurosci.

大池美也子,谷川直人,道面千恵子他(2016).「看護の教育的関わりモデル」を活用した教員とのアクションリサーチによる看護師の実践に対する認識の変化,日本看護学会誌、36、19-26.

長田暁子,江本リナ,橋本美穂他(2013).NICU で在宅医療を必要とする子どもの退院調整を行う看護師の困難感に関するアクションリサーチ,日本小児看護学会誌,22(2),48-53.

Proctor E, Silmere H, Raghavan R, et al(2011). Outcomes for Implementation Research: Conceptual Distinctions, Measurement Challenges, and Research Agenda, Adm Policy Ment Health,38,65-76.

柴田美恵子,仮屋隆史,松井理沙(2013).患者対応で受けるストレス軽減の効果 精神科病棟におけるナラティブ・アプローチを用いた看護師への支援の取り組み、日本精神科看護学術集会誌、56(1)、182-183.

柴田応介著,萱間真美編集(2015).パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版 IIリエゾン精神看護 集団療法(集団精神療法)、照林社、p351-353.

重村淳(2014). 東日本大震災から 3 年 福島からの報告 福島県県中地域の支援者支援を通じて考えること、保健師ジャーナル、70(3)、204-208.

白澤政和(2009).ストレングスモデルのケースマネジメント いかに本人の意欲・能力・抱負を高めていくか、ミネルバ書房.

末永好葉,山本眞利子(2014).ストレングスの認知再構成法が自動思考と抑うつに及ぼす影響、久留米大学心理学研究、13、29-37.

高橋葉子(2012).東日本大震災後の支援者支援-支援者であり被災者である人達を支えるということ. Psychiatry 67 : 114-120.

高谷衣美,遠藤淑美,小川貞子他(2013).新人看護職員研修「看護を語る」の満足度と効果 リフレクションに基づいた研修における質問紙調査の分析、日本看護学会論文集 看護管理、43号、331-334.

種田綾乃,鈴木友理子,深澤舞子他(2016).特集 東日本大震災支援-活動のまとめとして 東日本大震災後の地域精神保健医療福祉システム再構築と外部支援、家族療法研究、33(3)、322-330.

谷口智英,餅原尚子,関山徹(2014).災害派遣における陸上自衛官のストレス緩和要因に関する研究(1)インタビュー調査の結果、鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要,9,13-20.

Yabe,H.,Suzuki,Y.,Mashiko,H.,Nakayama,Y.,Hisata,M.,Niwa,S.(2014).Psychological distress after The Great East Japan Earthquake and Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident: results of a mental health and lifestyle survey through The Fukushima Health Management Survey in FY2011 and FY2012,Fukushima J Med Sci.,60,57-67.

Yalom Irvin D.著,中久喜雅文 川室優(2011).グループサイコセラピー 理論と実践,西村書店.
山田晴美,久住眞理,吉田浩子他(2013).東日本大震災の災害支援活動に派遣された保健師の心身の健康に関する調査、心身健康科学、9(1)、26-36.

横山恵子,長谷川真美(2016).中堅看護師が他者に語れる看護観を持つことの意味 看護観のキャリア研修を実施して,日本看護学会論文集 看護管理、46号、111-114.